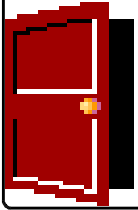


令和5年度《昨年度に続き、今年度も読書活動の楽しさと大切さを伝えたくて》



読書活動への扉を開く！

No.78

桑村小学校令和6年1月18日

文責 渡邊

自分で考えて、行動する子を育てることは大切なことです!!

皆さんは、横浜創英中学・高等学校長(元 千代田区立麴町中学校長)の工藤勇一氏をご存知でしょうか？

工藤氏は、2020年3月まで千代田区立麴町中学校で学校長を務め、固定担任制の廃止や宿題廃止等、様々な教育改革に取り組み、その実践を『学校の「当たり前」をやめた 生徒も教師も変わる！公立名門中学校長の改革』(時事通信社 2018年)で著しました。この著書は、10万部を超えるベストセラーとなり、教育関係者やメディアの間で話題となりました。

この冬に私は工藤氏が著した『麴町中学校の型破り校長 非常識な教え』(SBクリエイティブ 2019年9月)を読み返しました。この著書は、保護者向けに書かれたものなのですが、校長である自分が「なるほどな」と感心させられる文献でした。

その著書のまえがきに次のような文章が載っていました。

現在、AIやIOTなど科学技術の進展は著しく、経済構造は大きく様変わりしています。子どもたちの時代は、ひとつの会社に就職して定年まで勤め上げるような社会ではありません。そのような時代の変革期にあたって、ますます大切になってくるのは自分で考えて、判断し、行動できる力「自律」ではないでしょうか。どんな親もその力を身につけてほしいと考えているはずです。

しかし、子どもの将来のために少しでもよい環境に置いてあげたいと願い、親は早いうちから理想に引っ張り上げようとしがちです。幼児期からのSTEAM教育、英語教育、プログラミング教育といった習い事など、こうした「子どものために」という熱心な取組が、逆に自律を身につけるチャンスを奪っているとしたら……。

子どもはそもそも主体的な生き物です。一方的な押し付けは、主体性を鍛える機会を奪い続けます。すると、与えてもらうことに慣れた子が育っていきます。その子たちの多くは、次第に与えてもらう「質」に不満を言うようになります。面倒見が悪い、教え方が悪い、教材が悪い……。うまくいかないことが起こると先生や学校のせいになります。「誰かのせい」「組織のせい」にする。よくご存じですね。こんな子どもが成長した「当事者意識のない大人」の集まりが、今の私たち日本の姿なのかもしれません。(P3.4より引用)

工藤氏は学校経営の中で、「自律」の育成を柱とし、大切にしてきました。

令和5年度本校の学校評価(後期)の中で、保護者の方が我が子に付けた力のいちばんとして挙げたのは、「自分で考えて行動する力」でした。まさに「自律」ですね。今年度、本校では重点目標を「自ら感じ

考え 行動する子」と設定し、取り組んできました。まさにここにきて学校の育成すべき資質・能力と家庭の育てたい力が同じ方向を向くことができたのです。

現在学校では、児童、保護者、教職員によるアンケート調査の分析と考察をもとに、令和6年度に向けての教育課程の編成作業を行っています。

これからの社会を生き抜く子供に、自分で考えて行動する力(自律)を育成することは大切なことだと思われま。そして、ここに「感性」というスパイスを効かせることで本校の特色が大いに発揮できるものと考えます。



【自分ごとの学びを大切にした授業】